

S1. 「海洋開発分野における計測・観測技術」

近年、様々な分野でデジタルトランスフォーメーション（DX）が進んでおり、海洋開発分野の研究でもその波が押し寄せてきています。現地観測や実験場での計測はこれまでもデジタル化が進んでいた分野ではありますが、新たな技術によって大幅に計測技術が進展したものもあります。たとえば、ドローンによる空からの観測はより沖合の、そしてより広範囲な波浪や、砂浜の平面的な地形観測を可能としました。また、レーザーによる測量機器は非接触で物体の形状やその変化を捉えることを可能とし、様々な実験で使われるようになってきました。今後は、現地の情報をドローンやレーザーで取り込んで、その情報を数値シミュレーションに活用する、あるいは実験模型や砂浜の作成に活かして精度の高い水理模型実験が頻繁に実施されるようになるかもしれません。

そこで、2023年の海洋開発シンポジウムでは、様々な計測・観測技術とその活用法を持ち寄り、これからの計測・観測技術について幅広い議論を行いました。その結果、計測技術にはそれぞれ得手不得手があるものの、得意な部分を持ち寄ることで新たな計測技術の可能性が広がることや、取得データの公開が計測・観測技術の発展に寄与する可能性が議論されました。2024年のシンポジウムでも、様々な研究の成果を持ち寄ってこの議論をより発展させていきたいと考えています。皆様の研究の成果をお待ちしています。